

介護等体験実習 の報告

介護等体験実習で学んだこと (特別支援学校)

藤原 拓道
(史学・文化財学科3年)

2日間の実習を通じて短い期間であったが、大変貴重な体験をすることができました。特に2つのことを学び、考えさせられました。

1つは先生が生徒一人ひとりに真摯に向き合い、生徒が勉強に集中できるように多くの配慮があることです。私はここまで生徒と向き合う姿を見て、支援学校の生徒さんたちはとても恵まれているなあと感じました。生徒一人ひとり平等に接している先生方の姿を見て、私もこのように生徒に尽くせるような教師になりたいと思いました。

2つ目は生徒の立場と先生の立場で授業のとらえ方が違うということです。この2日間できるだけ生徒の近くで学んだり一緒に身体を動かしたりしてこうと思っていました。生徒の立場で受ける授業と先生の目線から捉える授業では、先生の意図することが伝わったり、伝わらなかったりすることがあることを知りました。生徒の立場を考えながら、どのように伝えていくかが授業づくりの上で大切であり、これから先の模擬授業や教育実習でこの経験を生かしていきたいと思いました。最終日に生徒間のトラブルを目の当たりにして何もできなかった自分に失望しました。もっと多くの人生経験が必要だと思えます。

採用試験まで1年を切り、勉強も大変になっていくと思いますが、充実した大学生活を過ごし、人間として自分を高めたいと今回改めて感じました。

最後にこの実習で自分に足りないものを多く見つけました。これからの生活で、これらを克服して成長していきたいと思えます。

介護等体験実習で学んだこと (社会福祉施設)

飯干 裕子
(国際言語・文化学科3年)

高齢者対象デイサービスセンターでの5日間の体験実習を通して多くのことを知り学ばせていただきました。自分よりも年上で経験豊かな方々と同じ時間に働き、多くのお話をして新しい知識を取り入れたり、アドバイスを受けたりできたことは大変貴重な体験になりました。

まず重要だと思ったのは、「相手に合わせて対応する」ということでした。介護のレベルにも個人差があり、運動障害や認知症の進行具合など、個人個人に合わせて対応する必要があると思いました。

次に「相手のことをすべて受け入れること」の重要性を学びました。通常では納得できない言動を相手がしたとしても、一度受け入れて、それからその理由を考え、理解することが必要です。例えば認知症の方の場合、繰り返し聞き返してしまうことを理解し、何度も返答することが必要です。教育の場でも子どもを理解するために、いったん受け入れて、その原因を考えることが必要だと気付きました。

さらに「平等に対応する」ことです。当たり前のことではありますが、今回の実習で、その重要性に気づくことがあり、意識してそうする必要があると思いました。

最後に「気配りをする」ということです。作業は覚えればできるようになりますが、利用者(高齢者)の方がいきなり咳き込んだり食事中にのどを詰まらせたりして苦しそうにしているときには、目の前の事態に臨機応変に対応しなければなりません。

今回学んだ多くのことが日常生活にも役立つことでした。日常生活でできるようになれば、教育現場でも当然のこととして行えると思いました。今回の貴重な体験を今後の人生に生かしていきたいと思いました。